

災害時の遊休井戸共助利用を支援

環境協

円滑な水質検査に向け県と協定締結

当協会は5月28日、大規模災害等で断水した場合の飲み水を確保するため、広島県と井戸水の水質検査の協力協定を結びました。

この協定は、災害時に、県・市町・環境協が連携して遊休井戸水等の水質検査を無料で実施するというもの。検査は、次の条件を満たした場合に実施します。(詳細は当協会HPを参照)

- ①遊休井戸等の設置者が、コミュニティの要請を受け、共助活動のために水源が開放できること
- ②被災した市町が、地域住民の負担軽減と衛生確保に資すると判断できること

当協会では、昨年の広島市の豪雨災害、平成22年の庄原市・世羅町豪雨災害、平成18年の広島県の水道用水供給事業における呉市・江田島市への送水施設崩落事故など、災害の度に無料の井戸水検査を実施し、飲料水の確保と地域住民の共助活動の推進を支援してきました。



協定書を交わす健康福祉局笠松淳也局長(左)と近光章理事長

この度の締結は、災害による混乱が想定される中、より迅速な対応ができるようにと検査体制づくりを呼びかけていたものが実現したものの。いざというときの地域住民同士の共助の推進、災害に強い地域づくりに役立てていただきたいです。



基礎研修に必要な項目や伝え方などを学び実践(上)、現場の下見を取り入れた実習を行い、安全管理のポイントを学ぶ(下)

専門研修始まる 知識・技術を習得

環境協では、公衆衛生推進委員の力量形成および組織強化を図るため、年間を通じて各種研修会を企画実施しています。中でも「専門研修」は、あるテーマについての専門的な知識・技術の習得を目的に開催しており、「基礎研修の開き方」「野外活動安

全管理」「広報ツールづくり」「企画づくり」の4つのコースがあります。今回は、5月及び6月に実施した専門研修について報告します。「基礎研修の開き方コース」

5月11日(広島)・12日(福山)に、公衆衛生推進者からは「安全管理のポイント」がわかったなどの感想がありました。参加者からは「安全管理のポイントを学べた」「実践が可能な場所が」「トイレや日よけはあるか」などを確認し、意見交換を行う安全管理について考えました。

進手帖を活用して独自に基礎研修(公衛協の基礎的な情報・役割・事業、募金など)を伝える場が開催できることを目的に、市3町公衛協から11名が参加して、基礎研修の内容を確認した後、シナリオづくりと発表を行いました。参加者からは「これから総会などで話を準備できた」と好評でした。

6月2日(呉市安浦町)と4日(三原市本郷町)に、屋外で学習活動等を行う際の安全管理の考え方の習得を目的に開催し、5公衛協から27人の参加がありました。子どもたちが海や川で活動することを想定し、実際に現場に出て「実施が可能な場所が」「トイレや日よけはあるか」などを確認し、意見交換を行う安全管理について考えました。

専門研修(広報・ツールづくりコース)

公衛協活動をPRしていくツールづくりのノウハウを体験を通して学ぶことで、広報担当リーダーの養成を行い、公衛協活動の活性化を図ることを目的に開催します。

- 西部会場 広島県公衆衛生会館 6階講堂
平成27年7月27日(月) 10:30~16:00
- 東部会場 一財)広島県環境保健協会東部支所 3階会議室
平成27年7月30日(木) 10:30~16:00
- 参加対象者
公衛協の事務や企画担当者、公衛協中堅推進委員育成事業の支援担当者など

※事業の詳細につきましては、市町公衛協事務局へお問い合わせください。

故岡田孝裕第4代理事長を偲んで

去る5月13日、当会第4代理事長であった岡田孝裕氏が逝去されました。享年84歳でした。

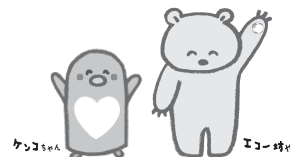
氏は、大和町長(昭和58年から平成11年)の現職の平成7年に、県衛連から発展的に創立された環境協の第1期の評議員にご就任され、2期4年(平成7年度~平成10年度)の間、評議員会議長を引き受けいただきました。氏は、大和町長を退かれた後、広大大学院で「地方自治体経営における『着実性』と『戦略性』に関する考察―広島県大和町のまちづくりを通して―」と題した論文を平成13年に執筆され、地域活性化の研究にまい進されました。

平成15年には、町長と当会評議員の経験と大学院での専門研究との縁により、第4代の理事長に就任されました。岡田第4代理事長は、行政的手腕はもとより、企業家としての両面の実力者であったことから、2期4年間、経営改革という視点で協会の多くの改革に精力的に取り組まれました。

理事長を退任された平成19年からは、理事評議員として、公益法人改革による今日の「股財団法人広島県環境保健協会の発展にご尽力いただきました。

協会に対する多くのご功績とご尽力に心から感謝申し上げます。謹んで冥福をお祈り申し上げます。

平成27年度 地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成27年度で56回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)
7,072,701

市町名	募金額(円)	達成率(%)
呉市	0	0.0
府中町	1,056,900	95.3
海田町	970,000	154.2
熊野町	0	0.0
坂町	0	0.0
江田島市	464,200	71.6
竹原市	0	0.0
大崎上島町	0	0.0
大竹市	0	0.0
廿日市市	2,569,840	161.7
廿日市市佐伯	0	0.0
廿日市市吉和	0	0.0
廿日市市大野	0	0.0
廿日市市宮島	0	0.0

市町名	募金額(円)	達成率(%)
安芸太田町	0	0.0
北広島町	0	0.0
安芸高田市	0	0.0
東広島市	0	0.0
三原市	1,075,260	49.0
世羅町	0	0.0
尾道市	446,900	13.9
福山市	0	0.0
府中市	0	0.0
神石高原町	0	0.0
三次市	422,704	35.7
庄原市	0	0.0
その他	66,897	-
合計	7,072,701	19.2

環境・健康募金の配分比率が変わりました。

<配分方法>	<配分金の使途>
市町公衛協配分金	目標額の70% + 突破額
環境協配分金	目標額の25%
事務費配分金	目標額の5%

※目標額は世帯数を元に設定

6月18日に開催された平成27年度第1回募金委員会で配分率の変更が決定しました。

市町公衛協配分金：目標額の65%+突破額 ⇒ 目標額の70%+突破額
事務費配分金：目標額の10% ⇒ 目標額の5%

事務費配分金の使途

- 募金PR用ポスター・チラシ・卓上のぼり、募金回収用封筒の作成
- 振込み手数料(公衛協事務局⇄募金委員会) など

市町別一覧表(平成27年5月末現在)

※この表は、平成27年5月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。